

会報 幸報

第24号 (2014/12/5)

広島県福山市木之庄町4-3-14
Tel&fax: 084-917-5937
e-mail: info@ccrc-fukuyama.org



Community Renaissance Research Center

12月の行事予定



【都市農業を考える連続講座】

ヴァンダナ・シヴァの「いのちの種を 抱きしめて」のビデオを見る会

日時：12月13日(土) 14時～16時

講師：加納三千子(当会理事)

場所：ルネッサンス研究所集会所

参加費：500円

ヴァンダナ・シヴァはインドに生まれ、カナダで物理学と科学哲学を学んだ人です。彼女を中心としたインドでの活動をビデオにしたものです。このビデオを見た後、食料の自立と私たちの口に行っている遺伝子組み換え食品について考えてみます。

地域の絆 もちつき

日時：12月23日(火・祝) 10時～13時頃

本NPOではいつものようにリサイクルバザーと、3月に手作りした味噌の販売をします。当日バザーの販売等のお手伝いが出る方はお申し出ください。

仁伍音楽祭



11月16日(日)朝10時から、「地域の絆」前の広場で仁伍音楽祭が開かれました。ステージでは、つくし保育園の子どもたちの歌、利用者さんも加わった合唱、オジサンズの方々の懐かしい歌や演奏があり、最後は明王台高校ブラスバンドの演奏がありました。

地域の絆の利用者さんとルネッサンスで作成したクチナン染めのハンカチは当日販売ということになりました。職員さんと利用者さんで販売されました。作成したハンカチの半分くらいは売れたようです。

ルネッサンスのリサイクルバザーでは、衣服の外に、田中さんが持って来てくださった古本、原田さん・羽田さんお手製の剣やヘアゴムなどが並びました。あまり売れなかったかかしらと言っていました。約1万円の売り上げがありました。



小物づくり



12月23日地域の絆のもちつき大会で販売する来年の干支の小物づくりを地域の絆の利用者さんとしました。指導は桑田さんをお願いしました。今回は羽田さん、原田さんと一緒に、パーツづくりをしておき、利用者さんには羊の鼻・目・耳・手・髪をつけることと、三笠のお重ね餅、紅白の南天をまとめてテープでまくことをしてもらいました。

地域の絆の職員さんの子どもがイスから落ちないように利用者さんが気を配られている微笑ましい場面もありました。



それぞれに可愛いお顔のヒツジが出来上がりました



産業観光ツアー



1. ツアーの概略

11月28日(金)に福山市北部の産業観光ツアーを、福山市観光課の後援をいただき、講師・スタッフ合わせて22名の参加で実施しました。今回の産業観光は、備後鞆から転換したユニークな会社として3社(カイハラ、ヒロポー、サンエス)を設定しました。最初は土曜日の予定でしたが、会社の営業時間内になりました。また生産現場の見学も予定していましたが、セキュリティ等の関係で実現しませんでした。

9時に福山駅北口を出発し、まずバスの中で講師の藤井輝明(福山市立大学教授)さんから、福山市北部をはじめとする綿産業の発展の概略について説明を受けました。

最初に訪問したのは貝原歴史資料館で藍染めの体験のあとDVDを見ながら会社沿革の説明を受けました。(手違いで、行ったり来たりしてすみませんでした。)

藍染めでは最初に絞り方と模様の出方の説明を受けたあと、皆さんそれぞれユニークなものを染め上げられました。

新市コミュニティセンターをお借りして昼食をとった後、参加者がそれぞれ自己紹介をして交流しました。一番遠くからは安芸郡府中町からみえていました。(元々は新市ご出身で、市の知つとる検定にも挑戦されているようです。)

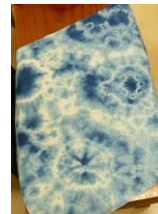


午後はまず府中市のヒロポーを訪ねました。ここでは会社の沿革ビデオを見せてもらった後、ラジコンを動かしてもらいました。その後建物内の様々な模型飛行機や開発中の一人乗りヘリコプターなどの展示の説明を受けました。

最後のサンエスでも会社沿革を説明するビデオを見た後、後に展示してあったトリカットのユニホームや空調服を実際に見ながら説明を受けました。



ステキな模様に染め上がりました



2. 備後繊維産業の発展とその事業転換

(1) 古くから綿織物が栄える

現在の福山の市街地は赴任してきた水野勝なりをはじめとする歴代の藩主が干拓して出来たものです。こうした干拓地にはまず木綿やい草が植えられていました。この木綿を周辺の農家の家内産業として紡ぎ、織っていました。こうした名残が180年代の駅家町向永谷の庄屋、馬屋原重帯(うまやはらしげみ)が著した地誌『西備名区』の中に「服部」「本郷」では古くから「はたおりもの」が栄えていたという記述があります。

また福山市の本通りには木綿橋という地名が残っています。これはそのそばに木綿の市が立ったのでそういう名前が付きましました。また「神辺縞」も有名でした。これは神辺宿の暇なときに綿糸を紡ぎ、染めて織った縞木綿ですが、地質が丈夫で染めが堅牢であると広く他国に紹介されて知られたものです。

(2) 備後鞆と産業近代化

① 備後鞆はなぜ有名になったか

備後鞆は伊予鞆、久留米鞆と並んで三大鞆の一つと言われています。これは1868年(明治元年)に「備後鞆」と名付けて大阪の伊藤忠商店に200反を販売したことにより有名になりました。量は33万反、大正10年に58万3千反、昭和10年に130万6千反、昭和35年には330万反とピークに達し、全国の生産量の70%を占めていました。

備後鞆は1853年(嘉永6年)、有磨村の富田久三郎が、府中の中田屋万兵衛から見せてもらった「キシ縞」という浅黄(あさぎ)縞の絹織物からヒ

ントを得て、縦糸の一部を竹の皮でくくって井桁
 紺を考え出したのがはじめであると言われている
 ます。備後紺の前は「文久紺」と言われ、石見地
 方にまで販売していたが生産量は僅かでした。

② 産業近代化

18 世紀の産業革命により、人力から水力へ、
 さらに蒸気機関へと動力原が変化してしまし
 た。現在の福山前に¹⁸⁹³(明治 26 年)に広島県下
 最大の工場であった福山紡績株式会社が設立さ
 れ、1922 年(大正 11 年)には工業生産額の約 3 分
 2 を綿関係が占めるようになってきました。

③ 繊維産業の転換

昭和 20 年代後半は、繊維・紡績は好景気で、
 俗に「糸偏景気」とか、機械がガチャンと動く度
 にもうかると「ガチャン景気」と言われていま
 した。ところが昭和 30 年代の高度経済成長長期に
 入ると、化学繊維の成長、生活様式の変化によ
 り需要構造が変化してきました。それにもな
 い、繊維産業での事業転換が次のように図られ
 始めました。

① 販売方法の転換

青山商事：個人商店からチェーン店へ

② 繊維産業内での製品転換

(株)自重堂、(株)コーコス信岡：ワーキングウェア、
 カジュアルウェアへ

③ 生産素材の転換

カイハラ(株)、坂本デニム(株)：紺からデニム生地

④ 異業種への転換

ヒロボー(株)、シャープ高屋電子工業(株)、
 サンエス(株)：電子機器の製造

3. 見学した会社の沿革と事業転換

以下、それぞれの会社で受けた説明の沿革を
 示しました。産業構造の変化などにより会社の
 危機に直面したとき、それぞれの会社は生き残
 りをかけて工夫を凝らした事業転換をはかられ
 ています。その危機をバネにして現在では世界
 的にもユニークな仕事をされていることがうか
 がえました。

(1) カイハラ株式会社

明治 26 年、手織正藍染の個人商店としてスタ
 ート。日清・日露及び第一次・第二次世界大戦
 を経て、昭和 23 年に三代目が 34 台の織機を引
 き継ぎ、昭和 31 年には大日本紡績と連携して、
 「洋服用の広巾紺」の事業化を試み、昭和 35 年
 には民族衣装としてインドネシアや中近東に輸
 出する 36 インチ巾の紺入りサロンの生産を始め
 ている。

高度経済成長長期に入り、主に農作業用に使わ
 れていた従来の紺の需要が減少してきたため、
 若者のあいだでジーンズ流行の兆しに注目し、
 昭和 43 年頃からデニム生産への事業転換を図つ
 た。その後、アメリカデニムの染色機に注目して
 ロープ染色機を完成させた。

現在では原綿から紡績、染色、織布と一貫生産
 システムを完成させた。

(2) ヒロボー株式会社

昭和 24 年、広島紡績株式会社としてこの地方
 唯一の紡績会社として設立し、昭和 47 年にはプ
 ラスチック部門の事業を始めた。パイロットにな
 りたかったが家業を継いだ社長が趣味として模

型飛行機を作製していた関係から、昭和 48 年
 にはラジコン模型分野の開発に成功し、ラジコン模
 型事業を開始し、昭和 52 年には紡績事業を閉
 鎖した。昭和 63 年には産業用ヘリコプターの生
 産を開始した。

現在はホビー用無線操縦模型、産業用無人航
 空機の製造、工業用、食品用をはじめとする
 様々なプラスチック製品、住宅用分電盤をはじ
 めとするエレクトロニクス機器を生産している。

(3) サンエス株式会社

昭和 7 年、佐藤群治郎商店として広巾織物製造
 業、被服縫製加工卸問屋業を開始し、戦後の昭
 和 24 年には佐藤織産株式会社にし、昭和 28 年
 には東京出張所を開設。昭和 30 年には軍鶏織
 物株式会社を設立し、昭和 38 年、ユニテカ株
 会社と提携してワーキングウェア生地を製造す
 るとともに丸紅(株)と提携してトリカット商品(脇
 に縫い目のないもの)を開発するほか、東レ(株)、
 東洋紡績(株)などと連携してビジネスウェアやジ
 ャンパー用の一枚型紙裁断機を開発。昭和 45 年
 にはサン電子株式会社を設立し卓上電子計算
 機受託生産を始め、昭和 48 年にはシャープ株式
 会社と技術提携して半導体組立製造を開始す
 るなど IT 産業に参入。昭和 58 年には社名をサ
 ンエスに変更するとともに電子系統の会社も合
 併。

平成 4 年、三次産業用、冷凍倉庫用、換気扇付
 き、食品加工用、介護用などのユニホーム製造、
 太陽光発電パネルの製造、サンミネラル(奥大山
 のおいしい水)の販売を行っている。また、ベトナ

ムや中国など海外にも生産拠点を設けている。

いただいた感想

バスの中で書いていただいた感想をご紹介します。皆様ありがとうございます。



①希望事項

- ・テーマは工場見学であったのに工場見学がなかったのが残念。工場見学が1社でもあったら、会社の中を少し見たかった。
- ・この内容で3千円は高い。
- ・カイハラへの行ったり来たりはもったいなかった。

②地域の産業を見直す

- ・福山の歴史からはじまり、それがいかに現在の産業に結びついているかが分かり、とても面白かった。
- ・福山に住んでいて、福山の産業を知ることができて大変良かった。

- ・ここ20年に備後の企業がどのようにグローバル化や時代のニーズに対応しているか知ることが出来た。
- ・地域の産業とか物産が良く理解できた楽しい一日でした。

- ・住んでいる地域でも、普段訪れることのない企業に見学させていただき、説明も聞くことができ、ありがとうございます。
- ・日頃行けない会社を見学できて良かった。

- ・個人では見学できない(普段見られない)、工場を見学できて楽しい一日でした。

いろいろな工場を見学して社会勉強になりました。

③体験

- ・説明が良く分かり、体験的なことが嬉しかった。
- ・体験染めは楽しく面白い図柄ができた。
- ・染色、ラジコンヘリなど体験でき楽しませてもらった。

④各会社の説明

- ・各会社の説明も丁寧で良かった。
- ・どの会社も熱心に説明して下さいました。

⑤楽しかった

- ・内容が豊かで楽しく勉強ができた。
- ・知らないことを知ることができ有意義な一日が過ごせた。
- ・大変有意義な一日でした。

⑥その他

- ・藤井先生の資料は大切に活用させていただきます。
- ・藤井先生の福山の歴史を聞いたのも良かった。
- ・サンエスの社訓の言葉、私たちも見習いたい。
- ・いつもの弁当と異なり、美味しかった。



なお、経費の内訳は、収入63,000円(@3千円×21名)、支出79,750円(内訳は染め体験料、昼食代、バス代、傷害保険料、講師謝礼、手土産代、その他諸経費)でした。

編集後記



急な国会の解散で年末選挙となりました。事務所のまわりでも選挙カーが走っていきます。これを聞きながら、立候補者が自由に運動が出来るのは戦後までなく、これっていいなあと思う今日この頃です。

12月3日付の毎日新聞に「今回の選挙はアベノミクスを問う、と言われているけれども、改憲問題も大事ではないか」という記事がありました。改憲問題といえばサライの2014年12月では『平和を願う理想を謳う、ニッポン復興の礎』日本国憲法』をもう一度』という特集を組んでいました。日本国憲法の「心」を読み解くための次の3つの視点をあげていました。

- ①理想・幸福を追求できる自由で平和な社会を目指す“標”
- ②教訓:過去の失敗や反省が“皺”として刻まれた「顔」である
- ③自然体その存在を意識しない「空気」のようであることが望ましいとしていきます。そして、日本国憲法は一回だけ「絶対に」という言葉を使って、あることを禁じているようですが皆様ご存じでしたか?それは第36条の「公務員による拷問及び残虐な刑罰は絶対にこれを禁ずる」。

今回は急な解散で有権者の関心は低いと報道されていますが、過去の反省から得られた私たちの権利をぜひ行使しましょう。(加)

